

支援する会ニュース

2022. 2. 17 NO. 69

韓国・金属労組慶南支部 韓国サンケン支会
韓国サンケン労組と連帯する埼玉市民の会
韓国サンケン労組を支援する会

東京都台東区上野 1-12-6 3階
中小労組政策ネットワーク気付
Tel:03-5816-3960 fax:03-5812-4086

サンケンコリア前に新たなテント拠点を設置！！

2月10日に第68回木曜行動がのべ90人の参加で取り組まれました。終日、雨やミズレ、雪が舞う寒い日でしたが、元気に取り組まれました。2月14日には埼玉市民の会による本社前スタンディングがありました。韓国では旧正月明けの2月9日、ソウルのサンケンコリア前に籠城テントを設置しました(写真右)。サンケンコリアはサンケン電気の韓国内の営業拠点。慶南地区から70人余の仲間がバスで駆けつけ、サンケンコリアへの申し入れ行動とテント設営に参加してくれました。闘いの新たな決意を固めたと組合員は語っています。今日2月17日夜、韓国の公共放送KBSの50分特別番組が放映されます。後日、字幕入りでYOUTUBEなどにアップされるので御注目を。サンケン電気の悪評が韓国全土に拡散するでしょう。



〔本社正門前〕



支援する会の仲間の発言で行動開始。韓国からキムジョンさんが「私たちはソウルにテントを立てた。金属労組、民主労総の仲間が協力してくれた。2週間のソウル

上京闘争についても連れ合いが『ソウルから戻らなくてもいいよ！』と言うので、私は『2週間でも辛いんだよ！』と答えた。『ソウルのテントは寝床もトイレも、昌原の方がマシだが、それでも全力で闘い職場に戻りたい！』と言った。サンケン電気社員のみなさん、私の声が聞こえますか。職場に戻れるように、支援をお願いします」と発言。キムウニョンさん、キムヒョンガンさん、埼玉市民の会、HOWSの仲間のアピールがあり、怒りのシュプレヒコールで行動終了。

〔志木駅南口前〕

この日も似顔絵パネルや横断幕が駅頭を埋めるなか、埼玉市民の会の仲間のアピールで行動開始。韓国からはキムウニョンさんが「諦めることを前提にするなら、サンケン電気との20年以上にわたる熾烈な闘いは存在しなかった。廃業決定直後に、経営側は60ヶ月分の慰労金を提示した。慰労金が目的なら、とっくにその慰労金で妥協していた」と闘いはカネのためではないと述べました。ヤンソンモさんも「サンケン電気が過ちを認め謝罪し、全てをもとに戻すまで闘い続ける。サンケンコリアのテントは私たちの新たな闘いの出発点だ。日本のみなさん、最後まで共に歩いていきましょう！」とアピール。ゆいの会などの皆さんによる「朝露」の替え歌、三多摩労法センター、明大生協労組の仲間のアピール。

〔池袋・東京営業所前〕

渡辺共同代表の発言でスタート。韓国からオヘジンさんが新たなテント設営に言及し「新たな闘いが始まったことをサンケン電気経営陣は理解していない。最後まで闘う決意で新たな闘いを始めた。いずれ日本への遠征闘争も展開する。徹底的な無視で私たちの闘いを止めることは出来ない。連帯する仲間がいる。冬が過ぎて春が近い」とアピール。日本からは、全労働者組合、日韓ネット、韓青同、武蔵学園労組がリレートーク。尾澤邦子さん、サンケン太郎さん、女闘労倶楽部の歌。池袋に怒りのシュプレヒコールが響きました。



サンケン電気の詫状

第一次サンケン闘争が集結した2017年6月2日に、サンケン電気は近隣住民に争議の解決を報告し「長きにわたって、早朝から大きな音で皆様に不快な思いをさせてしまい、誠に申し訳なく重ねて陳謝いたします」とチラシを配布しました。そのチラシは総務人事統括部長M氏の名義で出されたもので、問い合わせ先は、現在池袋の東京事務所にいるI氏です。第一次サンケン闘争は不当・不法な組合員への整理解雇であり、闘う労働組合潰しによるものでした。この詫状によってサンケン電気は深く反省したと思いましたが、第二次サンケン闘争の事態となり、少しも変わっていないことがわかります。問い合わせ先の電話番号は下記の通り。問合わせてみましょう。

電話番号：048-472-1111